

健康情報分野の資料収集と評価

鷹野祐子¹⁾ 赤沢友子¹⁾ 柚木聖²⁾ 小林順子³⁾ 杉江典子⁴⁾ 中山康子⁵⁾ 牛澤典子⁶⁾

(日本図書館協会健康情報研究委員会)

- 1)財) 東京都医学研究機構 東京都神経科学総合研究所 図書室
2)浦安市立中央図書館 3)浦安市役所 4)駿河台大学文化情報学部
5)東京都立中央図書館 6)東邦大学医学メディアセンター

【目的】

健康情報の蔵書構築を考える上で、まず考えるべき事は何か？

医学資料は大量にあり、話題の範囲は広い。予算の制約を受け保存する場所も少ない場合、いろいろな形で提供される情報をどのような形態で収集し提供し、古くなる資料をいかに除去していくか。図書館員が一般市民向けの健康情報を選定し、整理する案内人としての役割を果たすために、健康情報資料の蔵書構築方針を考える。

【方法】

本発表は、日本図書館協会健康情報研究委員会で翻訳作業を行っている「**The Public Librarian's Guide to Providing Consumer Health Information** (公共図書館員のための消費者健康情報提供ガイド)」第5章 **Building a Consumer Health Collection** (消費者健康分野の蔵書構築) をもとにした。日本で提唱されている蔵書構築方法とあわせて、健康情報資料の蔵書構築について調べた。

【結果】

健康情報資源の蔵書管理方針の開発において大切なのは、「根拠」と「業務手順」である。根拠により蔵書方針の多くの要素、蔵書目的・範囲などが導かれる。選書・構成・貸出・除架点検など、利用者・予算に応じた業務手順を決めることにより、蔵書が適切に整備され、蔵書の目標および基準が明確に説明できるようになる。

健康情報資料の特徴とその注意点とはなにか。統計からニーズを考えた。

また、各論として、パンフレット類の収集・管理方法や、一般市民への資料提供、特に多文化多言語資料の提供について検討した。

Kenyon, Andrea; Casini, Barbara Palmer. *The public librarian's guide to providing consumer health information*. Chicago, Public Library Association, 2002, 157.